

2020年度 我が校の学ぶ力向上策(実施計画)

**【市町 目標】**  
 ○学校と連携して「読み解く力」の育成に向けた取組を推進し、子ども一人ひとりの学びに向かう力を高める。  
 重点1:子どもの実態を把握し、学習状況に応じた指導・支援を行い、子ども達が自らの学びを自覚できる授業作りの取組の推進  
 重点2:子どもが他者とあたたかく関わり、主体的に学ぶための学習習慣の定着と学んだことを活用していくための学習時間の確保  
 重点3:全教職員が課題を共有・認識し、学校全体で組織的に実践するための取組の推進

**【学校 目標】**  
 ○一人ひとりが喜びと充実感を味わえる学校となるよう、子どもたちの「読み解く力」の育成に向けた取組を推進し、学ぶ力を高める。  
 重点1:子どもの実態を把握し、学習規律の確立と主体的に学ぶ姿勢作りへ努め、各学年における基礎・基本の徹底を図る。  
 重点2:子どもたちが培った力を活用し、思考力や判断力、表現力を育成できるような、あたたか前向きな学級集団作りへ努める。  
 重点3:子どもの学ぶ力の向上と教師の授業改善を推進するために校内研究に主体的に取り組み、課題解決に向けて全教職員で組織的に実践する。

**【現状と課題】**  
 ○視点1:漢字・計算の力など基礎基本となる学力はある程度定着しているが、個別支援や、補充学習の実施が必要な子どもも見られる。書くことに対する抵抗がみられ、表現力や語彙力、言語力、読書量の不足との関連が考えられる。また、学習・生活両面の基本的な習慣、学習規律に緩みが出ることがあり、学習効率・姿勢・意欲の面に影響していると考えられる。  
 ○視点2:学習したことを活用し、問題の意図を正しく読み取って、課題を解決しようとする力(読み解く力)が十分身につけていない。授業中に自分の考えを全体で交流し、深め合うところまで高めたい。  
 ○視点3:校内研究にどの教員も熱心に取り組む姿が見られる。事後研究会でも活発に話し合いが進められる。先進的な方法やより良い実践を他校や外部講師からさらに学んでいきたい。また、日々の活動の中での気づきや研修等での学びなどの情報を職員の中で共有するようにしたい。

取組		
視点1 学びを実感できる授業づくり	視点2 学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり	視点3 子どものために一丸となって 取り組む学校づくり
<p><b>【取組事項】</b>                      ○学習規律の確立と主体的に学ぶ姿勢作り→基礎的・基本的な知識や技能の習得に向けて、最後までやりきるという姿勢を培う。                      ○ノート指導の充実→学習の足跡のわかるノート作りを低学年から系統的に実施し、学期ごと全員のノート展を行う。                      ○学力底上げのための取組の充実→漢字能力検定などを利用し、学年の漢字を繰り返し練習や実践を通して確実な定着をめざす。                      ○放課後学習で個に応じた補充学習を行う。詩や名文の暗唱に取り組んだり、朗読集会を持ったりして、語彙数を増やしていく</p>	<p><b>【取組事項】</b>                      ○活用力を高める指導に努める→課題の発見・解決に向けた主体的・協同的な学習を意識した授業を行う。やり方や考え方をまとめたり、つないだりする教師の役割を意識する。                      ○思考力・判断力・表現力を育てるための手立てを講ずる→言語活動を取り入れた授業を行う。「まとめ」や「ふりかえり」にキーワードの言葉を使って書く時間を確保する等、授業のふり返りを質的に高める。学び合い、高まり合う学習集団づくりに努めるとともに、話し合いを深められるようなペア・グループ学習を取り入れる。                      ○具体的な取組:新聞記事を活用し、高学年ではその要点を、中学年ではそれに対する自分の意見をまとめる練習を繰り返し指導する。低学年では、相手を意識させ伝えるように記述する機会を増やす。                      ○ICTを有効に活用し、授業改善を行う。</p>	<p><b>【取組事項】</b>                      ○主体的な学びを支える温かい学級集団を作り、適切な学習環境を整備する。                      ○算数の授業で5段階の表現力(具体的・操作的・言語的・図的・記号的)を意識して授業改善を行う。                      ○算数科の授業を2人体制で行い、どの児童も「わかった」「できた」喜びを味わえるようにする。                      ○研修で学んだことを伝達し合ったり外部講師から新しい知識や技能を学んだりして、指導力の向上を図る。                      ・放課後学習を充実し、「基礎基本コース」と「発展コース」を設ける。                      ・日常的に教え合い、学び合う教職員の関係づくりに努めるとともに、OJTを取り入れた研修も行う。</p>

**その他 取組事項**

- 家庭学習の習慣化→家庭学習の手引きを有効活用する。学年に合った時間(学年×10分+10分)の内容の宿題を出し、習慣づける。
- 児童の委員会活動や図書館司書、家庭と連携し、読書活動を推進する。
- 基本的な生活習慣の育成→ゲーム・メディアに対する自己管理能力を家庭・学校が連携して取り組む。
- 漢字・計算・音読を毎日宿題に。早寝、早起き、朝ご飯、挨拶、運動を習慣づける。

**取組の評価**

※プランに示した数値目標は、県教育委員会の取組の指標です。学校の評価指標は、それぞれの課題等の状況に応じて設定することが重要です。

	取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
全体		・国語、算数の勉強は好きか(学力調査・学びアンケート:肯定率の向上) ・好きな教科や授業があるか(1-チェック:肯定率の向上)		
視点1	各学年の基礎的・基本的事項の習得 学習規律の確立	「桜谷小学校のきまり8箇条」により、全教職員が共通理解して取り組めたか。(定期的に取り組状況のチェック・全教職員による取り組みに対する声かけ)		
視点2	活用力を高め、思考力・判断力・表現力を育てる手立ての実践	・話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか(学力調査・学びアンケート:肯定率の向上) ・発言や活動、ふり返りの時間を確保して授業を進めているか。		
視点3	校内研修の充実と授業改善の推進	・OJTや校内研修を通して、互いに学ぶ機会ができたか。 ・教師の授業改善に取り組む意識が高まったか。		
その他	漢字検定に向けた学習の取組 家庭学習の定着化	・5、6年生は漢字検定、1から4年生は漢字テストに向けての取り組みを通して、各学年の漢字が定着できたか。(合格率の向上)		

評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目:9月 2回目:2月】

今年度の取組の課題